

実践レポート

【報告者】 橘田京子	
【学年】 6 年	【教科・単元名など】 算数科 単元名「立体のかさの表し方を考えよう」
【実践内容】	
<p>単元目標</p> <p>体積の概念や測定及びその単元について理解し、直方体や立方体の体積を求めることができる。</p> <p>ひびきあう子ども達を目指すための指導の工夫</p> <p>知的好奇心を喚起するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複合図形の模型を操作しながら体積の求め方を考える算数的な活動を取り入れる。 ・ 色々な求め方を見つける。 <p>かかわり合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人差を小さくすることで、ひびき合いの楽しさを感じさせたり、ひびき合いの深まりや広がりを求めたりする。 <p>本時目標 既習活動をもとに、複合図形の体積を求めることができる。</p> <p><活動の流れ></p>	
<p>体積の求め方を振り返る。</p> <p>1 , 学習課題をつかむ</p> <p>考える足場作りをする。</p> <p>2 , 見通しを持って自力解決する。</p> <p>3 , 体積の求め方を発表し、検討する。</p>	<p>直方体の体積の求め方を確認する。 (足場1)</p> <p>図を黒板に掲示すると同時に、イメージをつかませるために立体を見せる。</p> <p>自力解決が困難な児童のための考える足場作りをする。(足場2)</p> <p>オープンスペースにL字型の平面図形を提示する。</p> <p>T 2</p> <p>ヒントカードを渡す。 T 1 ・ T 2</p> <p>自力解決が困難な児童は</p> <p>与えられた立体をどのように見たか質問し、図に線を入れさせる。</p> <p>実際に立体を使って分割してみることによって、どう求めたらよいか解決させる。</p> <p>求め方がすぐに見つかった児童は</p> <p>面積の求め方を足場にして他の方法で解かせる。そして、多様な見方ができることに気づかせる。</p> <p>隣同士、グループの友達同士で、交流させる。</p> <p>求め方を、平面図形や、立体模型を用いて説明させる。</p>

実践報告

ひびきあう子ども達を目指すための指導の工夫について

複合図形の模型を操作することにより、多様な求め方を見つけることができた。

複合図形の模型を操作することにより、自力解決が困難な児童にも求め方を見つける一助となった。

チームティーチング（T1・T2）を行うことにより、個人差に対応することができた。

足場作りをすることが、自力解決のもとになった。

隣同士、グループの友達同士で、交流させるなど、交流の場を多くすることで、自分の考えを確かにしたり、友達の考えを知り、もっと追求したいという意欲を持つことができた。

何を足場にするか。が大切である。

T1・T2との研究や、打ち合わせの時間の確保が難しい。